

(4) 公共施設等マネジメント

① 公共施設等総合管理計画の策定

本市は、公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点に立って、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことを目的に、今後の公共施設等マネジメントの基本方針となる、公共施設等の管理に関する基本的な方針を整理した「岩国市公共施設等総合管理計画」を策定しました。

基本理念は、『岩国市民のより良い未来のため、安心・安全で次世代に負担をかけない最適な公共施設等を目指す』とし、公共施設等の総合的なマネジメントを進めています。

② 公共施設(建物)の基本方針

本市保有の公共施設(建物)においては、老朽化や機能の重複等により、安全性や効率性に課題を抱えている施設も多く存在しています。そうしたことから、適切な保全や改修を行うとともに、統廃合や複合化(集約化)等を進め、施設保有量の最適化を目指しています。

こうした現状を踏まえ、新たな施設整備においては、防災上の観点から市民の生命や財産を守るために必要な施設、地域の活性化に資する施設、市民生活を大きく向上させることのできる施設など、政策的な必要性を十分に検証した上で、施設整備を検討することとしています。

基本理念

岩国市民のより良い未来のため、安心・安全で次世代に
負担をかけない最適な公共施設等を目指す

3 計画地(黒磯地区)の現況

検討の基礎条件として、計画地及びその周辺における立地条件、自然条件、インフラ条件、その他の法規制などを整理します。

(1) 立地条件

総合的な福祉・交流拠点の施設整備にあたっては、広域的な利用が見込まれることから、交流の場や駐車場などの整備等が必要とされ、一定規模の敷地面積が求められます。

また、施設整備の実現性や、補償物件に要する経費等を鑑みた場合、未利用地であることが望ましく、利用環境面では、市街地近傍に位置し、広域的な交通アクセスが可能であることが求められています。

計画地は、本市の市街化区域において、唯一の大規模な未利用地であるとともに、岩国南バイパスの南伸の計画により広域的な交通アクセスの向上が期待されるほか、公共交通機関としてバス停やJR藤生駅が比較的近い距離に位置しています。

(2) 自然条件

① 地形

計画地は、東側の国道188号やJR山陽本線を挟んで瀬戸内海に面しており、標高は小高い西側から海際の東側にかけて低くなっています。

② 土地利用

計画地は現在、土地利用は行われておらず、未利用地となっています。

周辺は、西側に住宅団地が丘陵の傾斜にそって開発され、頂上部には黒磯県営住宅等の公営住宅や高齢者デイサービス施設が立地しています。北側には幼稚園と中学校が近接して位置しています。

③ 景観

計画地からは、東側に向かって瀬戸内海を望むことができます。

(3) インフラ条件

① 交通条件

道路交通

黒磯地区周辺の主な幹線道路は、東側のJR山陽本線に平行して南北方向に走る片側1車線の国道188号です。

国道188号から計画地へアクセスする市道は、国道188号の交差点と近接するJR山陽本線の踏切を横断しなければならず、危険な状況となっています。また、その市道は唯一の生活幹線道路であり、その他の市道は、ほとんどが狭い道路となっています。そのため、計画地へ安全・円滑にアクセスできる道路の整備が求められています。

岩国南バイパス

岩国南バイパスは、国道188号の位置付けにより、山手町から藤生町までに至る主要幹線道路として整備されています。

一方、藤生町以南においては、主要幹線道路が国道188号のみに限られており、朝夕の通勤時間には、交通渋滞が慢性化しており、地域住民の生活に支障をきたしています。

また、瀬戸内海沿岸部を走る国道188号は、波浪による路面の冠水等により、通行止めになることがあり、代替路線がないため、人流・物流の大きな課題になっているほか、災害時における交通機能への重大な影響が懸念されています。

こうした状況の中、平成29年度から国土交通省において、藤生町から長野付近までの約7kmを対象区間とした概略ルート・構造の検討が行われ、平成30年2月末の中国地方小委員会で「全線バイパス案」のルート帯が妥当と判断されたところです。今後は、平成30年度以降の新規事業化に向け、詳細ルート・構造の検討等に入ることとなり、岩国南バイパス南伸の早期事業化が期待されています。

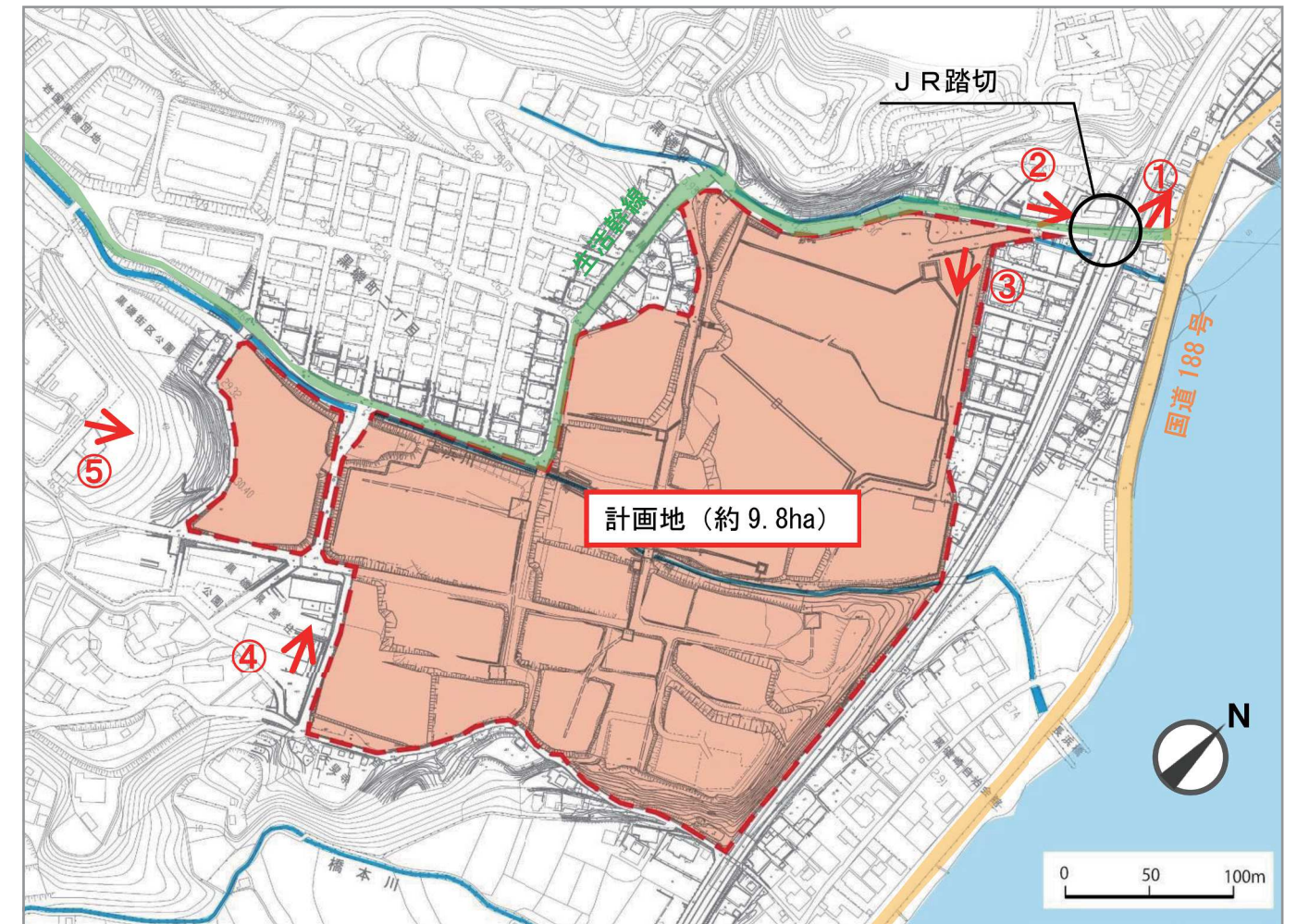
公共交通

主な公共交通機関としては、JR山陽本線、路線バスがあります。計画地から約600mの位置にJR藤生駅がありますが、そこから計画地へは国道側から踏切を渡ってアクセスするか、地区内の狭い道路を迂回することとなり、安全性、利便性に課題があります。

(4) その他の法規則

計画地の全体は市街化区域に含まれ、そのうち国道沿線は第一種住居地域ですが、大部分は第一種中高層住居専用地域に指定されています。

また、土砂災害防止法により、計画地のほぼ全域が土石流における土砂災害警戒区域に含まれているほか、一部が急傾斜地における土砂災害特別警戒区域及び警戒区域に指定されています。



【計画地周辺の現況写真】

写真位置①



写真位置②



写真位置③



写真位置④

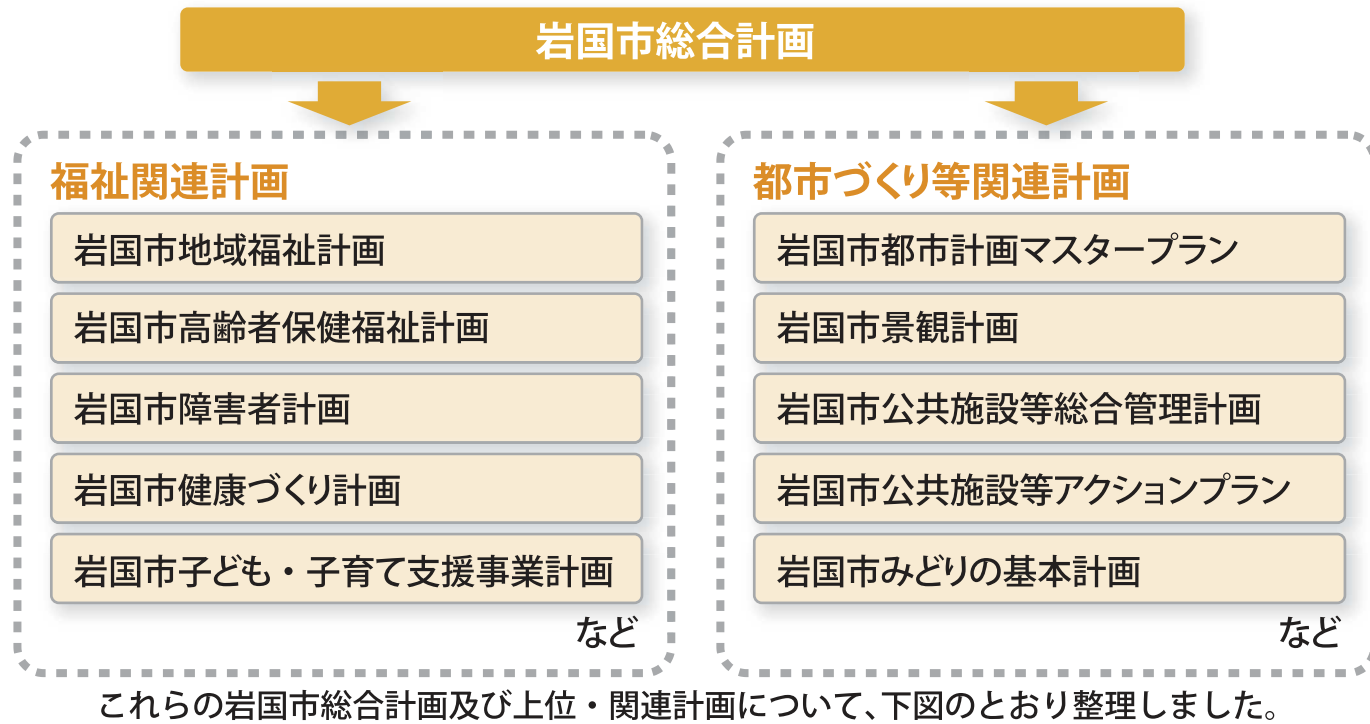


写真位置⑤



4 上位・関連計画

岩国市総合計画や分野別計画など上位・関連計画において、福祉や都市づくりなどの方向性を整理します。



【上位・関連計画における整理】



5 意向調査

まちづくり構想策定にあたり、市民アンケート調査、事業者ヒアリング調査、市議会での提案、黒磯地区交流拠点づくり構想策定検討委員会での意見など、幅広い意向を整理します。

(1) 市民アンケート調査の概要

① 調査概要

市民の意見やニーズを定量的に把握することを目的に、アンケート調査を実施しました。

- 実施期間：平成29年2月13日(月)～平成29年2月28日(火)
- 対象者：20歳以上の市民1,300人(男女同数)
- 調査方法：郵送配布、郵送回収 ○回収状況：回収数611通(回収率47.0%)

② 市民アンケート結果の概要

子育てに関する福祉分野

全体の傾向としては、「子育てと仕事の両立をサポートする機能」、次いで「子育て全般に関する相談ができる機能」、「子育て家族同士の交流や仲間づくりができる機能」を求める役割が高くなっています。

なお、妊娠している人や未就園児がいる世帯においては、「子供や家族同士の交流ができる機能」を求める割合が高くなっています。

子育てに関する福祉分野(ニーズが高い上位3項目)

- ① 子育てと仕事の両立をサポートする機能(54%)
- ② 子育て全般に関する相談ができる機能(40%)
- ③ 子育て家族同士の交流や仲間づくりができる機能(36%) (*選択肢から3つ選択)

高齢者や障害のある方に関する福祉分野

全体の傾向としては、「介護する方の負担軽減やリフレッシュができる機能」、次いで「高齢者や障害のある方が困ったときに相談ができる機能」、「高齢者や障害のある方のリハビリができる機能」を求める役割が高くなっています。

なお、支援が必要な障害のある方や介護を必要とする方がいる世帯においては、「相談機能」、「リハビリ機能」を求める割合が高くなっています。

高齢者や障害のある方に関する福祉分野(ニーズが高い上位3項目)

- ① 介護する方の負担軽減やリフレッシュができる機能(53%)
- ② 高齢者や障害のある方が困ったときに相談ができる機能(40%)
- ③ 高齢者や障害のある方のリハビリができる機能(37%) (*選択肢から3つ選択)

健康づくりに関する福祉分野

全体の傾向としては、「スポーツなどを通じて健康づくりができる機能」、次いで「生活習慣の改善や健康づくりに関する相談ができる機能」、「食育や健康づくりに関する講座などの情報提供が受けられる機能」を求める割合が高くなっています。

なお、40～50歳代においては、「啓発活動などを支援する機能」を求める割合が高くなっています。

健康づくりに関する福祉分野(ニーズが高い上位3項目)

- ①スポーツなどを通じて健康づくりができる機能(53%)
- ②生活習慣の改善や健康づくりに関する相談ができる機能(51%)
- ③食育や健康づくりに関する講座などの情報提供が受けられる機能(41%)
(※選択肢から2つ選択)

交流に関する分野

全体の傾向としては、「植物園や農園などで自然とふれあうことができる機能」、次いで「集会、多様なイベント等が開催可能なホール機能」、「料理教室や文化活動などの生涯学習ができる機能」を求める割合が高くなっています。

なお、20～30歳代の子育て世代においては、「博物館や科学館などの体験・学習ができる機能」を求める割合が高くなっています。

交流に関する分野(ニーズが高い上位3項目)

- ①植物園や農園などで自然とふれあうことができる機能(48%)
- ②集会、多様なイベント等が開催可能なホール機能(43%)
- ③料理教室や文化活動などの生涯学習ができる機能(35%)(※選択肢から2つ選択)

(2)福祉事業者ヒアリング調査の概要

①調査概要

本市の現状や課題等を把握するため、高齢者福祉、障害者福祉、児童・子育て、その他福祉関係事業者の計19者に対し、ヒアリング調査を実施しました。

- 調査事業所：市内の相談窓口機関を中心にヒアリングを実施
- 調査期間：平成29年2月～3月

②福祉事業者ヒアリング調査結果の概要

子育て支援に関するニーズ

「子育て支援サービスや遊びの空間」などの機能を求められています。

- ・子供と保護者が集う場、多目的に利用可能な空間、子供の自由な発想や成長を促す遊具などのある子育て支援サービスを提供する空間が欲しい。

高齢者福祉に関するニーズ

「多様なニーズに対応できる総合福祉施設」などの機能を求められています。

- ・リハビリ施設、研修施設、入所施設などのある、多様なニーズに対応できる総合的な福祉施設が欲しい。

障害者福祉に関するニーズ

「相談窓口や社会参加を支援する施設」などの機能を求められています。

- ・基幹的相談窓口、リハビリ施設、障害者スポーツ施設などがあり、障害者の社会参加を支援する施設が欲しい。

地域福祉に関するニーズ

「地域福祉を活性化する施設」などの機能を求められています。

- ・ボランティア活動拠点、福祉会館など、地域福祉を活性化する施設が欲しい。

(3)市議会・黒磯地区交流拠点づくり構想策定検討委員会での意見の概要

市議会からの提案や、黒磯地区交流拠点づくり構想策定検討委員会においては、導入機能等について、次の意見が出されています。

・医療施設、薬局の誘致	平成24年12月議会
・子育て支援施設、健康づくり施設、複合福祉施設 ・アクセス道路の確保	その他市議会からの提案
・福祉に関わる人材を育成する施設 ・若者が福祉を体験し学ぶ施設 ・市民と米軍関係者が日常的に交流できる場 ・アクセス道路の確保など	構想策定検討委員会での意見

6 課題の整理と導入機能の方針

基本条件の整理を踏まえ、分野ごとに課題の整理を行い、これらの課題に対応するために導入機能の方針を掲げ、まちづくりの方向性を定めます。

課題の整理

社会潮流の変化からみた課題

- 少子化・高齢化の進展により、福祉に関わる人材の育成・確保が必要

子育て支援に関する課題

- 「子育て支援サービス」や「相談体制」の充実を図り、安心して子供を産み育てることができる環境や、働きながら子育てしやすい環境づくり
- 自然環境を活かした「遊び場」や「公園」など、家族や家族同士のコミュニケーションが図れる「交流の場」の充実

高齢者福祉に関する課題

- 高齢者や介護者を対象とした「相談窓口」の充実により、専門的、継続的な相談支援や高齢者福祉サービス等の情報、介護等に関する正しい知識の「情報提供」が受けられる体制づくり
- 元気高齢者を支援し、健康維持・増進のための「健康リハビリ機能」の充実や、「ボランティア活動」、「生きがいづくり」などの活動推進

障害者福祉に関する課題

- 障害者への「相談支援体制」の充実を図り、適切なサービスの提供が受けられる体制の強化
- 障害者の自立を支援するため「リハビリ機能」の充実や、サークル活動、スポーツ活動などを通じた「生きがいづくり」の活動推進

地域福祉に関する課題

- 地域福祉を推進するため、「研修施設」や「ボランティア活動」などの活動拠点の構築

交流に関する課題

- 豊かな自然環境での癒やしや安らぎを求め、多くの市民が寄り集う「交流の場」の確保
- 集会やイベントなど、多くの市民や外国人の「交流の場」の確保

健康づくりに関する課題

- 健康づくりのために、誰もが気軽に「運動やスポーツに親しめる環境」の確保
- 生活習慣の改善や、健康づくりに関する正しい知識を身につける「相談機能」の充実と、市民健康意識の向上推進

黒磯地区における課題

- ◆ **交通条件**：国道188号やJR藤生駅方面からの交通アクセスの改善が必要
- ◆ **防災条件**：土砂災害警戒区域等の指定による災害時の対応を想定した導入機能の選定が必要
- ◆ **その他**：関係機関との連携により医療施設等の導入が必要

導入機能の方針

子育て支援分野

- 子育て支援サービスを推進する機能
- 親子や家族で楽しく遊び、学習できる機能

高齢者福祉分野

- 相談体制や情報提供の充実により高齢者や介護者の不安や負担を軽減する機能
- 高齢者の生きがいや健康づくりを推進する機能

障害者福祉分野

- 障害者に対する理解促進の啓発や相談支援により適切なサービスを提供する機能
- 障害者の健康と自立を支援する機能

交流分野

- 自然とのふれあいを通じて、誰もが憩い・集える交流や安らぎの場を提供する機能
- イベント交流や国際交流を促進する機能

健康づくり分野

- スポーツや運動を通じた健康づくり・交流を促進する機能
- 生活習慣病の改善や食育などに関する相談ができる機能

地域福祉分野

- 各機能を融合させる企画運営、担い手の活動や育成を支援する機能
- 計画地や周辺地域との連携が可能な交流事業・医療施設
- ボランティア活動を推進する機能

福祉・ボランティア人材の育成

交通・環境インフラのリニューアル